



福谷章子のまちづくり通信

2013年1月号（平成25年1月20日発行）
〒266-0031 千葉市緑区おゆみ野3丁目40-8 河野ビル213号
e-mail: fukutani2903@gmail.com
ブログ: <http://fukutani.blog.ocn.ne.jp>

編集・発行 千葉市議会議員 福谷章子（未来創造ちば）
tel&fax 043-312-2903
ホームページ: <http://fukutani-office.com>
ツイッター: <http://twitter.com/shoukosan>

平成25年第1回定例会が始まります。

2月20日から始まる今議会は、25年度の予算案を審議する議会となります。議会日程は、2月15日に決定し、市議会のホームページで公開されます。なお、開会日の午前11時から議場コンサートがあり、傍聴できますので、議会に足を運んでください。

予算要望書を提出

医療や介護、義務教育や出産育児など「公助」が必要なものに対して、市民や地域で協力し合う「共助」で支えた方が幸せ感が高まる場合があります。経済発展による税収増で公費負担枠が広がり、行政に任せる分野が広がってきましたが、本来、市民同士が協力をして行った方が効率的で楽しいこともあります。そういった観点で行政予算を見直し、市民の活動をサポートするための仕組みを整えていくことが、必要ではないでしょうか。2013年度の予算編成については、市民の活動を支える、千葉市の魅力を引き出す、ということに重点をおいた予算要望をしました。

政策形成手法、こどもにやさしい都市、ごみ削減の3項目については特に力を入れて提案し、その他に、縦割りから横の連携による支えあいづくりについて、政令市移行20年を経て今後の都市のあり方に関して意見交換をしました。



最後に、議会のICT化戦略会議についても報告し、市長からアイデアとエールをいただきました。議会としても、さまざまな形で市民のみなさんと、もっともっとコミュニケーションが図れるよう、工夫していきたいと思えます。

<2012年11月 熊谷市長と次年度予算に関する意見交換>

12月 代表質問 提案と市の答弁

●「こどもにやさしい都市宣言」について市の見解は？

子どもや若者、子育て世帯を対象とした様々な課題に積極的に取り組もうとする千葉市の意志や主張、方針を、都市宣言のような形で市の内外に表明することは意義がある。

当事者である子どもや若者をはじめ、多くの市民や関係団体が積極的に参画し、自分たちの宣言として誇りを持ち、将来に夢や希望が持てる内容とすることが重要である。国でも基本方針が示されるが、それを踏まえ、千葉市独自の宣言などについて検討する。

●千葉市では予算編成過程の公開など、財政の透明化を図る努力をしているが、次のステップとして、市民の負担を事業ごとに算出して示すことはできないか。

現在、新たな公会計システムの導入を検討しており、事業の分析に必要な事業別のコスト、財源などが算出されることから、事業ごとに市民負担を示すことが可能となる。一覧化して公開することも含め、検討していきたい。

●オープンデータを活用した市民の自治活動の可能性をどう考えるか。

自治体が持っている加工されていない生のデータを、自由に分析・活用が可能となることで、地域の課題や各々が担うべき役割が何かを知るきっかけとなりえる。このことから、市民の活動の範囲は広がりを待つ可能性があると考えます。

●救急医療体制の課題と今後について

夜救診に従事する医師の確保、耳鼻咽喉科での入院治療への体制、コンビニ受診の抑制が課題である。今後は、休日の耳鼻咽喉科の二次救急医療体制の整備に向けて取り組んでいく。

●高齢社会において市営住宅の増設はどのように考えているか。

建て替えにおいては、全ての住戸を高齢者対応とし、間取りは世帯人員の減少に対応するため、単身者入居も可能な規模の小さいものを中心に整備する。また、全戸数の5%を車椅子対応とする。

●公園管理の現状と課題、今後のパークマネージメントの体制をどう整えるか。

市内1,117箇所の公園緑地のうち、39%の431箇所は地域の清掃協力団体が清掃活動をしている。一方、施設の老朽化や樹木剪定、害虫防除など多様化する要望に対応することが難しい状況がある。パークマネージメントについては平成23年度から行っているが、市の意向と地域ニーズとにギャップがある。地域と市が十分に意見交換を行い、地域が清掃、樹木剪定、公園を利用する際のルールづくり、地域イベントに利用するための運営方針について考え、市はそれをサポートし高木選定、遊具や施設修繕を行うなど、地域団体との役割分担により、パークマネージメントの体制を整えていく。

※) その他、多項目にわたって質問をしました。詳細については会派ホームページ(<http://miraisozochiba.tumblr.com/>)をご覧ください。

しよーこさん 日々の想い

去年は、いじめや虐待の話題が後を絶ちませんでした。今年も新年早々、悲しいニュースが続きます。学校教育だけではなく、地域の支え合いの中で子どもたちの命を守ることができないでしょうか。数年前のこんな取り組みをご紹介します。

ある小学校の放課後子ども教室で開催された「みんなの命は宝物！」というテーマで、助産師さんが子どもたちに語りかけたお話です。テーマは性教育です。性教育というと寝た子を起こすような余計な話を子どもたちにするケシカラン教育だと、過剰反応する人たちもいます。そんな彼らは性教育を「性行為と避妊のノウハウを教える教育」に矮小化しているに他ならず、ここで教えるべきことを誤解しています。性教育とは、「命の起源を話すことによって命の大切さを伝え、子どもたちに自分自身がかけがえのない存在なのだ、と気づかせること」が本来の目的だと私は思います。

さて、精子と卵子とが結びついた時、その細胞はクルクルと廻るのだそうです。必ずどんな命でも、結合したその瞬間にクルクルと廻る。それは、まるで命の誕生の喜びを全身で表しているようだ。この「クルクル」を『命のダンス』と呼ぶのだそうです。『命のダンス』ステキな言葉です。全ての生命が、生を受けたことを喜んで踊る。赤ちゃんは、この世に生まれ出るその時を自ら決め、そして命がけで生まれてくる。「あなたたちも、全員が自分で決めてこの世に生まれてきた勇気のある赤ちゃんだったのよ」との助産師さんの語りかけに子どもたちが息を呑む、そんな空気を感じました。自分が生まれてきた時の話を聞くことを子どもは喜びます。親がどんなに期待していたか、どんなに喜んだか、そのことを知ることによって自らの尊厳を実感していきます。ただ、悲しいことに親からそんな話はついぞ聞かされることのない子どもたちもいるのです。それどころか、育てることさえ放棄している親もいる。そういった親を責めたところで、問題は一つ解決しません。

この放課後子ども教室で行われたように、地域の大人たちが、子どもたちに命の誕生の喜びを伝えていくという着実な取り組みこそが必要なのだと感じます。

新浜リサイクルセンター見学！

前回発行した通信はごみ特集でした。その記事を作成しながら、「私たちの手から離れたごみの行方が気になるね」というのが事務所のスタッフの意見でした。そこで、現場を見届けようではないかと新浜リサイクルセンターに一同くり出しました。

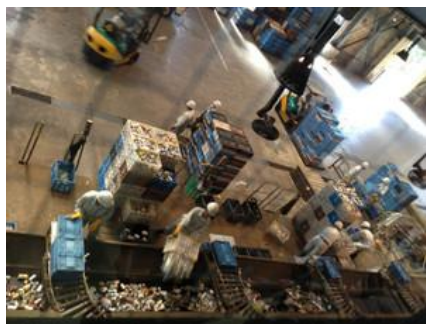
【さまざまなごみ処理施設】

新浜リサイクルセンターは、リサイクルできる資源物（ごみとは言わない）を分別して、再生工場（民間事業者）に引き渡すための施設で、中間処理施設です。

これとともに、焼却処理施設、埋め立てる最終処分場が、市が管理しているごみ関連の施設です。焼却場は現在3施設ありますが、そのうちの1か所は、28年で終了予定です。最終処分場は1か所しかなくて、今後は地理解得することが難しく新設は無理だろうと思われま



新浜リサイクルセンターで処理されるのは、缶、ビン、ペットボトル、粗大ごみと不燃ごみで、大まかに分類されて運び込まれたものを、さらに、洗浄して再利用するものと、粉碎してリサイクルするもの、と、手作業でより分けま



す。有害ごみは、ドラム缶に入れてストックされ、専門の処理業者に引き渡します。ペットボトルは、別棟に一旦集められて圧をかけ、プラスチックの再生業者に運ばれていきます。ここに集められて再分別された物は、このように再生業者に運ばれますが、運ばれた先でどのようなことになるか、そこまで見届けてみたいというのがスタッフ一同の次なる欲望です。有害物も、どうなるのか気になるのです。

【誰かが処理するというエゴ】

普段、当たり前に出しているごみですが、こうして追ってみると、複雑な思いに駆られます。たとえどんなに不必要であっても、捨てたものの処理には、必ず誰かが最後まで関わっているということを目の当たりにしたからでしょうか。ごみはエゴだと感じました。私のエゴの塊を、見知らぬ誰かがどこかで処理しているのです。人間とは未熟な存在だと思知らされます。

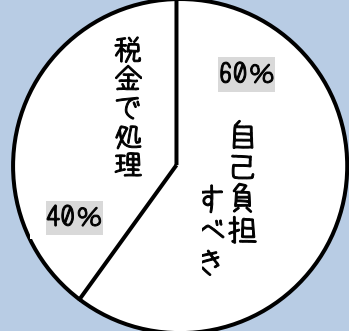


アンケートの結果報告 ご協力ありがとうございました



前回の、ごみに関するアンケートへのご協力ありがとうございました。各家庭でのごみに関する様々な取り組みについて、教えていただきました。回答をまとめてみましたので、家庭でのごみ減量の参考にしていただけたらと思います。

そのごみ 税金で処理vs自己負担?



～行政に求める声～

★プラスチック・草・枝を別々に回収してほしい。
★庭の草木を自宅で燃やして、剪定枝→回収→堆肥→希望者配布→花いっぱい市の千葉市。★求められたらやるのではなく、市も積極的に地域に出向いて説明会を開催してほしい。（各自治会の会合など）



～生ごみはどう処理してる?～

★庭に穴を掘り、細かくした生ごみを入れる。細かくすると朽ちるのが早い。★野菜くず・皮を天日乾燥している。（夏場以外）★庭にコンポストを置いて処理している。★畑に埋めている。



～ごみの量を減らすために工夫していること～

★食料は食べ切り・野菜は使い切る。★品物を買すぎないように気を付けている。★手づくり（リサイクル）している。★生ごみは、日光にあて乾燥してから出す。★必要以上のごみが出ないように、家族分の材料を持ってくる宅配を利用している。★分別の意識を家族全員に持たせるように教育している。★エコバック持参・過剰包装を断る。★子どものおやつは手作りするようにしている。



家庭ごみ手数料徴収の制度についての答申

1月8日に廃棄物減量等推進審議会から、答申が出ました。

答申内容は以下の通りですが、この答申に基づいて条例改正が行われ、その改正案が3月議会で審議されます。

- ◆ **ごみ処理状況** 平成19年度から取り組んできた、周知啓発による可燃ごみ削減が限界に至り、平成24年3月「千葉市一般廃棄物処理基本計画」において有料化検討の必要性が謳われた。
- ◆ **手数料徴収目的** 可燃ごみに含まれる資源物の再資源化を進め、環境負荷を軽減する。
ごみ処理の費用負担を公平にする、ごみ減量への市民意識が向上し、循環型社会に向けた取り組みを促進する。
- ◆ **制度の内容** 対象は、可燃ごみと不燃ごみとする。ただし、剪定枝などは無料とする。
徴収方法は、指定袋に課金する。手数料額については、市民負担を最小限度に抑えた料金に設定する。
- ◆ **支援制度** 紙おむつ使用者や市民ボランティアによる地域清掃活動は、申請に基づき対象外とする。
- ◆ **手数料の使途** 減量・再資源化の費用に充てることが望ましい。
- ◆ **手数料徴収と合わせて実施する施策**
ごみ出し支援事業、ごみステーション管理支援、資源物・不燃ごみの祝日収集、戸別収集、再資源化ルートの拡大。
- ◆ **その他** 不法投棄・不適正排出対策を講じること。市民説明を丁寧に行うこと。



・1月27日(日)議会報告会 & 新年交流会・
 報告会 > 15時～16時45分 鎌取コミュニティセンター2F
 交流会 > 17時～ みんなの広場(緑区おゆみ野3-40-8 河野ビル1F)

議会報告会を開催します。議会や市政の報告をしながらの意見交換会をしたいと思います。是非ともお出かけ下さい。みなさんのご意見やご提案もお待ちしています。(交流会は会費500円となります)